



平成26年12月期 第1四半期
決算説明資料
(2014年度)

2014年5月8日

昭和シェル石油株式会社

注意事項

この資料には、当社グループ(当社及び連結子会社)の将来についての計画や戦略、業績に関する予想、見通しの記述が含まれています。

これらの記述は、本資料の発表日現在における情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

従いまして、経済情勢や市場動向、並びに為替レートの変動等の要因により記載の予想数値とは異なる結果となる可能性がありますので、予めご了承下さい。

業績概要（2014年第1四半期）

	2013年 1-3月	2014年 1-3月
	億円	
石油事業営業利益 (CCS*ベース)	164	-33
エネルギーソリューション事業営業利益	20	61
CCS*ベース営業利益	185	28
経常利益	365	70
CCS*ベース経常利益	178	32
当期純利益	246	68
1株当たり当期純利益(円)	65.3	18.0

(注)「その他」および「調整額」は石油事業に含む

* CCS: Current Cost of Supply (在庫評価の影響を除いたもの)

2014年第1四半期 決算

- CCSベースの営業利益および経常利益は前年同期を下回った
- 石油事業の営業利益は前年同期比で大幅に悪化した一方、エネルギーソリューション事業は改善

石油事業ハイライト

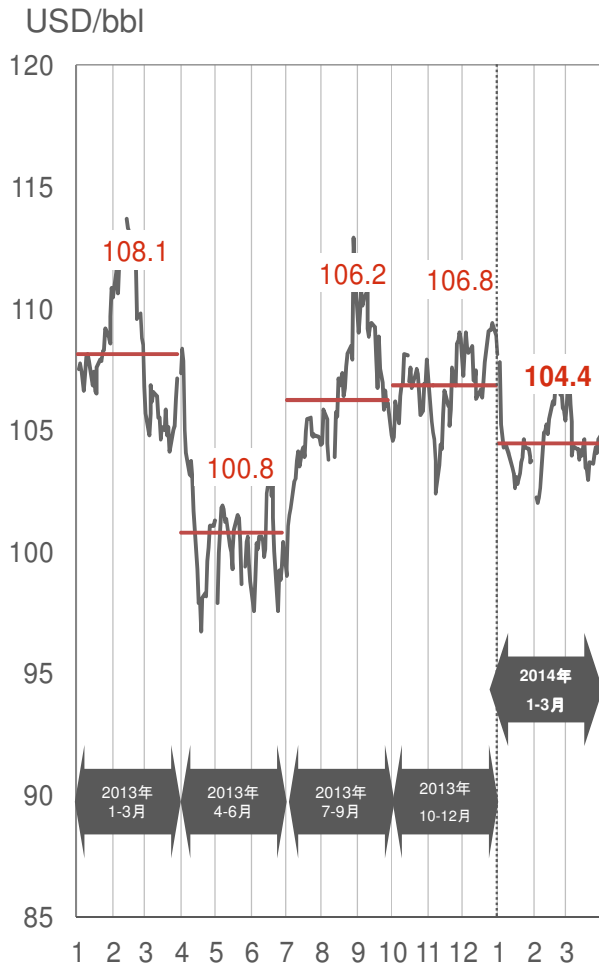
- CCS営業利益の悪化は国内燃料油マージンの低迷が主因
- 製品需給環境やコスト変動の市場価格への反映遅れなどによりマージンが低迷
- ガソリン・軽油などの主要4油種販売においては前年同期比で業界平均を上回る伸び率
- グループ製油所は業界平均を上回る高稼働を維持。収益性の高い化成品は生産最大化を継続

エネルギーソリューション事業ハイライト

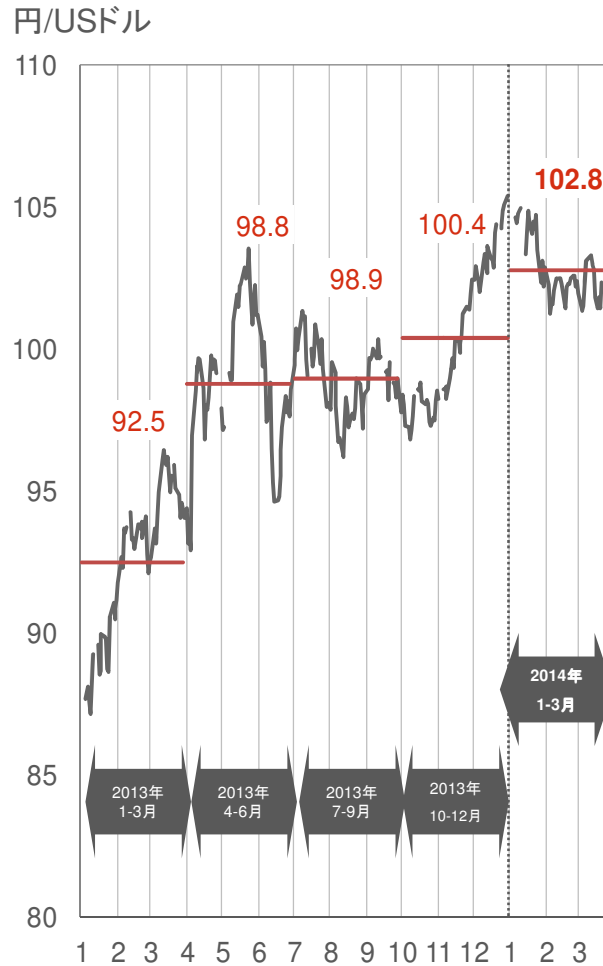
- 営業利益は計画を上回り、前年同期比で大幅改善
- (太陽電池事業)当初計画通りの営業利益を達成
- (太陽電池事業)生産工場はフル稼働を継続。W当たり生産コストの低減は計画を上回って進捗
- (電力事業)安定的な発電所稼働をベースに、堅調な需要に支えられ、引き続き着実な収益貢献

事業環境－原油、為替

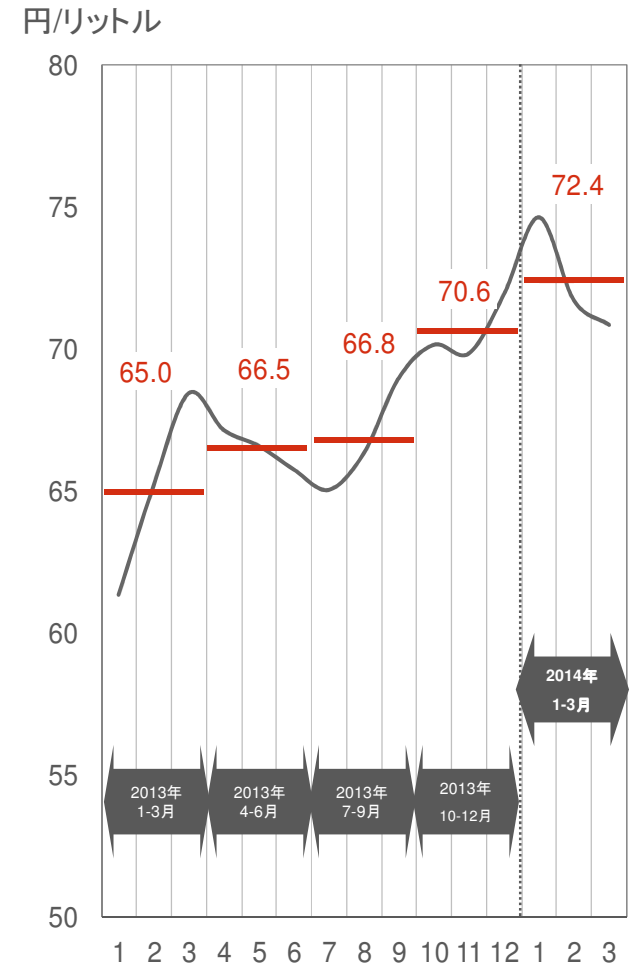
ドバイ原油価格



為替レート(ドル)



原油通関CIF価格

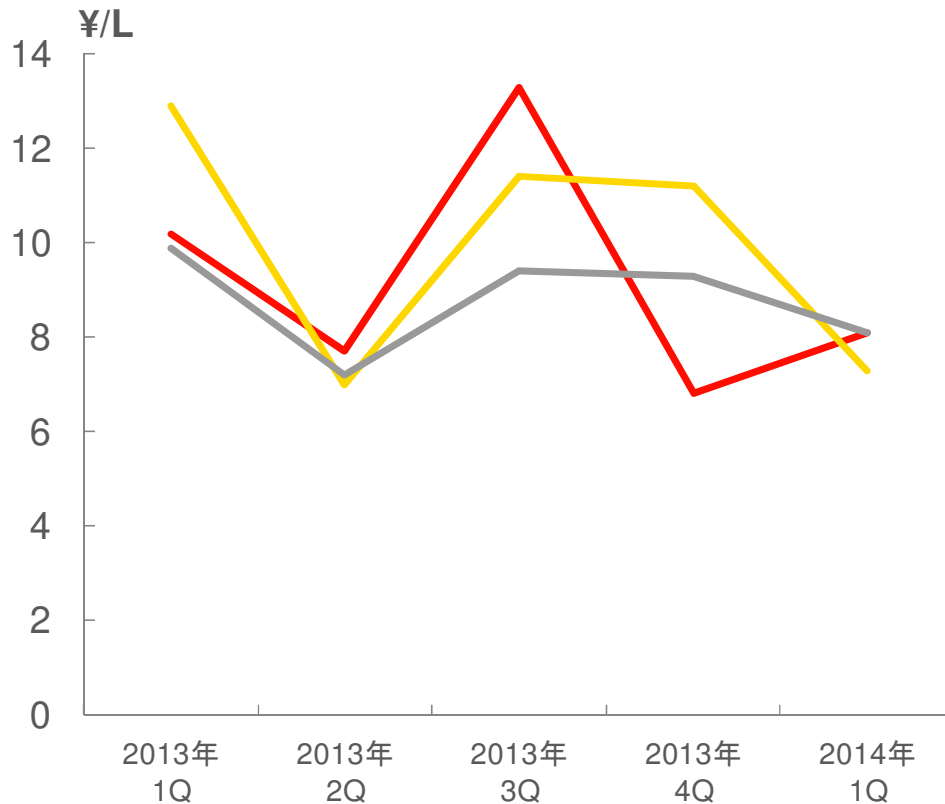


出所：財務省「貿易統計」

事業環境－石油事業



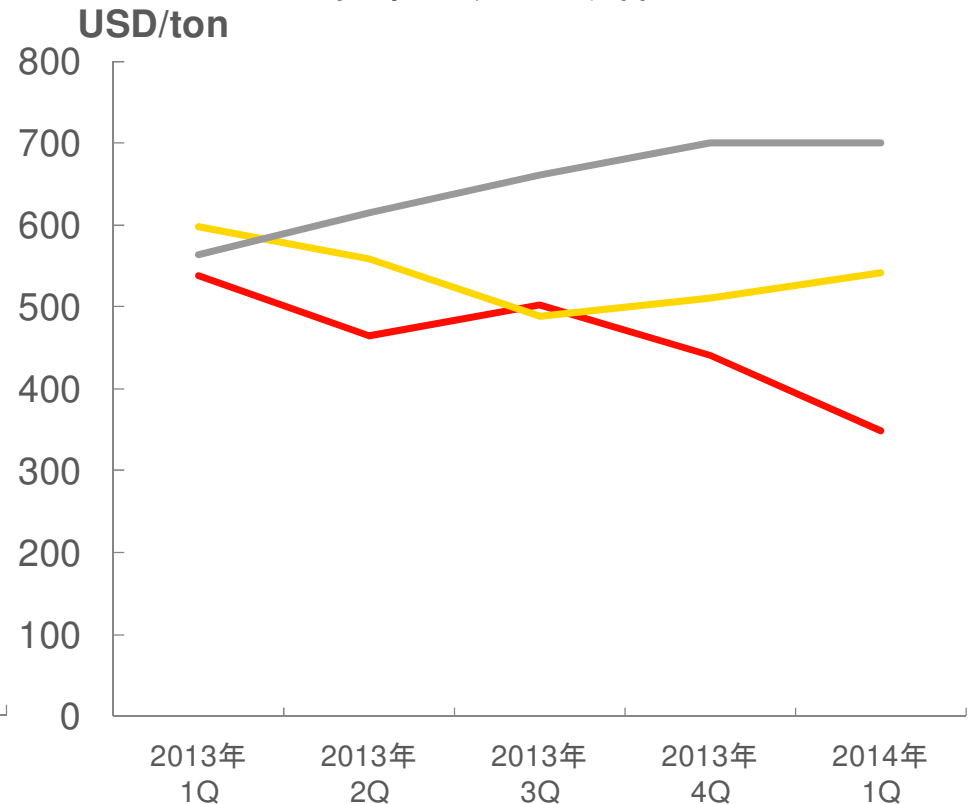
国内石油製品マージン



— ガソリン — 灯油 — 軽油

※ 国内スポット価格－原油通関CIF

アジア極東地域 化成品マージン



— ミックスキシレン — ベンゼン — プロピレン

※ スポット製品価格－ドバイ原油スポット価格

- 国内燃料油は、特に灯油に関し、天候不順や円安による入着原油価格の高騰によって需要が抑制された。コスト変動や製品需給環境の市場価格への反映が遅れたことでマージンは低迷。
- ミックスキシレンのマージンは第4四半期から低下したものの、ベンゼンおよびプロピレンは比較的高いマージンを維持。引き続き生産・販売の最大化を行った。

決算ハイライト (1-3月)

■ 原油価格および為替レート

		2013年度 1-3月実績	2014年度 1-3月実績
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	108.1	104.4
為替レート	(円/USD)	92.5	102.8
	(円/EUR)	122.1	140.8

■ 連結損益計算書ハイライト

(百万円)	2013年度 1-3月実績	2014年度 1-3月実績	増減	前年同期比(%)
売上高	759,275	810,494	+ 51,218	+6.7%
営業利益	37,209	6,721	- 30,488	-81.9%
営業外損益	-657	330	+ 988	-
経常利益	36,552	7,052	- 29,499	-80.7%
※在庫影響	18,658	3,846	- 14,812	-79.4%
※CCSベース経常利益	17,893	3,206	- 14,686	-82.1%
特別損益	2,853	1,919	- 934	-32.7%
当期純利益	24,610	6,812	- 17,798	-72.3%

【注】カレント・コスト・オブ・サプライ(CCS)ベースの収益: たな卸資産の評価の影響を除いた原価を用いて算出する収益

セグメント情報 (1-3月)

■ 売上高

(百万円)	2013年実績 1-3月	2014年実績 1-3月	増減	前年同期比 (%)
石油事業	720,201	776,539	+ 56,337	+7.8%
エネルギーソリューション事業	37,000	31,715	- 5,285	-14.3%
その他	2,073	2,239	+ 166	+8.0%
売上高 計	759,275	810,494	+ 51,218	+6.7%

■ 営業利益

(百万円)	2013年実績 1-3月	2014年実績 1-3月	増減	前年同期比 (%)
石油事業	34,743	241	- 34,502	-99.3%
※在庫影響	18,658	3,846	- 14,812	-79.4%
※石油事業CCS営業利益	16,084	-3,604	- 19,689	-122.4%
エネルギーソリューション事業	2,092	6,169	+ 4,077	+194.8%
その他	364	297	- 66	-18.4%
調整額	8	12	+ 3	+37.1%
営業利益 計	37,209	6,721	- 30,488	-81.9%
※CCS営業利益 計	18,550	2,875	- 15,675	-84.5%

・石油事業： 揮発油、ナフサ、灯油、軽油、重油、潤滑油、LPG、アスファルト、化成品等石油製品等の製造・販売

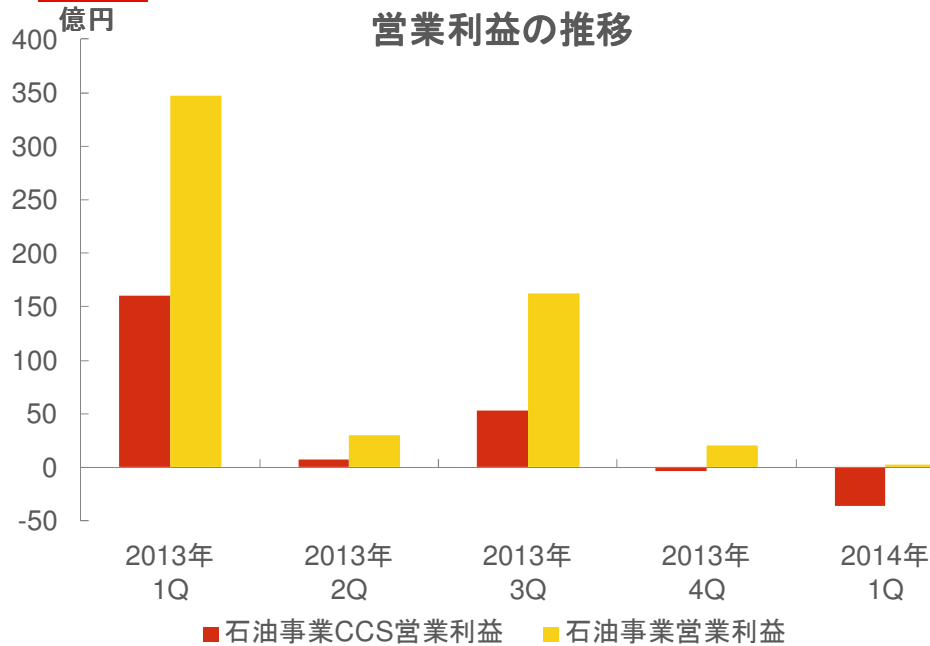
・エネルギーソリューション事業： 太陽電池モジュールの製造・販売及び電力の卸供給

・その他： 不動産、建設工事、自動車用品の販売及びリース業等

2014年1-3月 業績概要



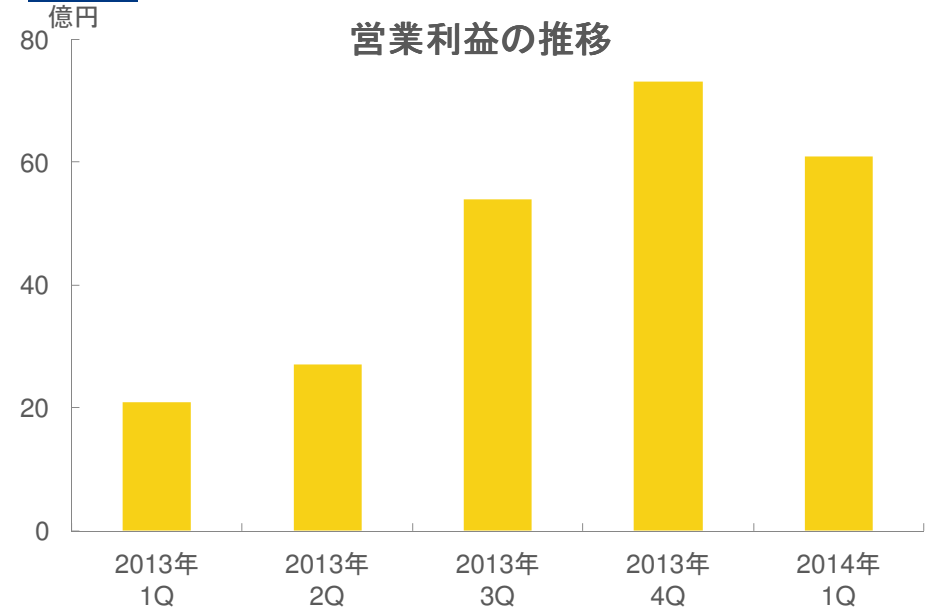
石油事業



- 第1四半期は国内燃料油マージンの低下を背景に、CCSベースの利益は前四半期比、また前年同期比でも低下。継続してコスト削減、化成品販売の強化、積極的な輸出に取り組んだ
- 円安を背景に、在庫影響額は前年度に引き続いて第1四半期も利益押し上げ要因



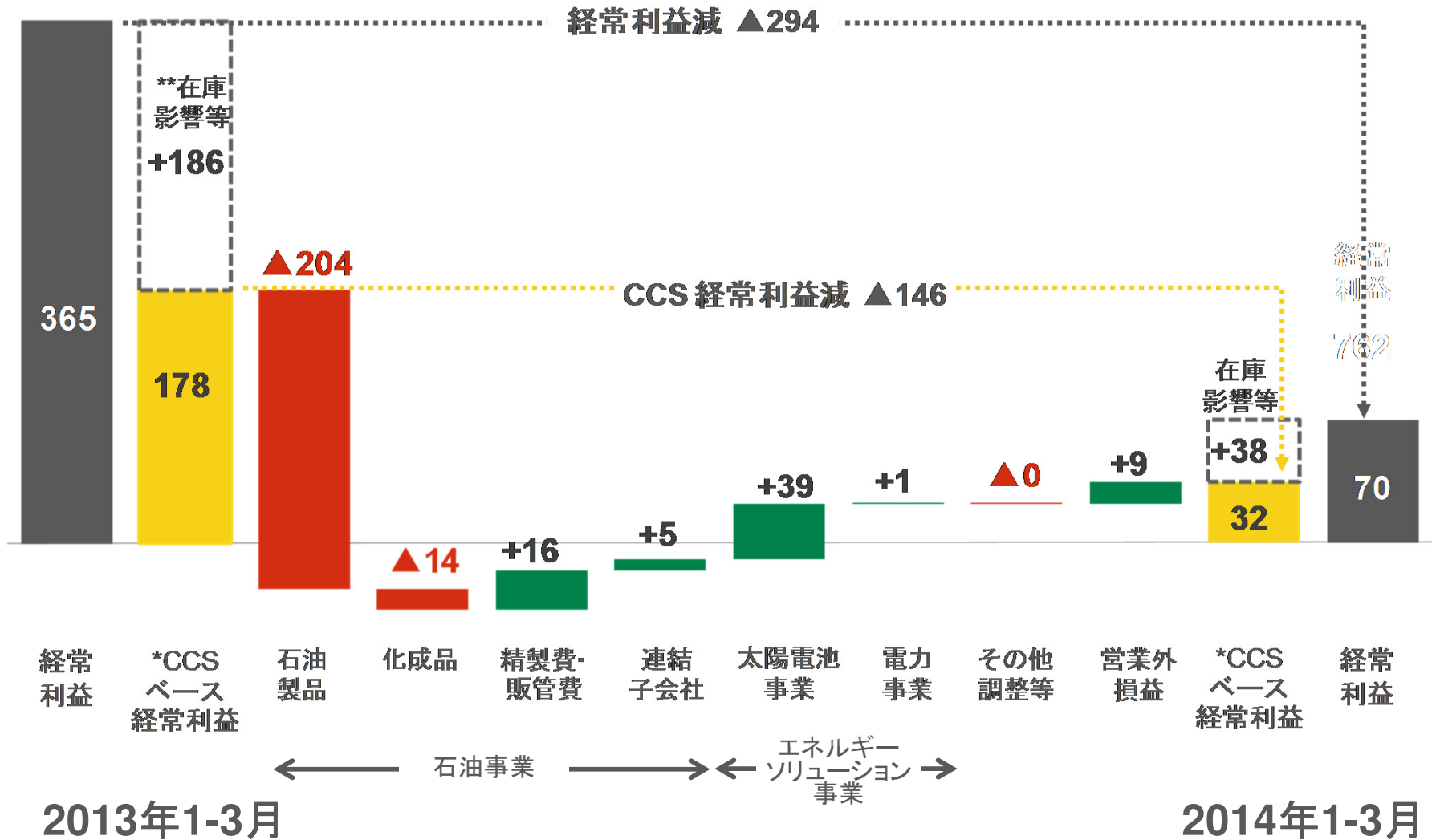
エネルギーソリューション事業



- 第1四半期営業利益は前年同期比で大幅増益。利益計画も達成
- 電力事業においては、GENEXおよび扇島パワーとともに順調な操業を継続し、堅調な電力需要を背景に安定した収益を維持
- 太陽電池事業は、国内市場にフォーカスした販売および生産コスト削減を継続。パネル販売価格は安定した推移

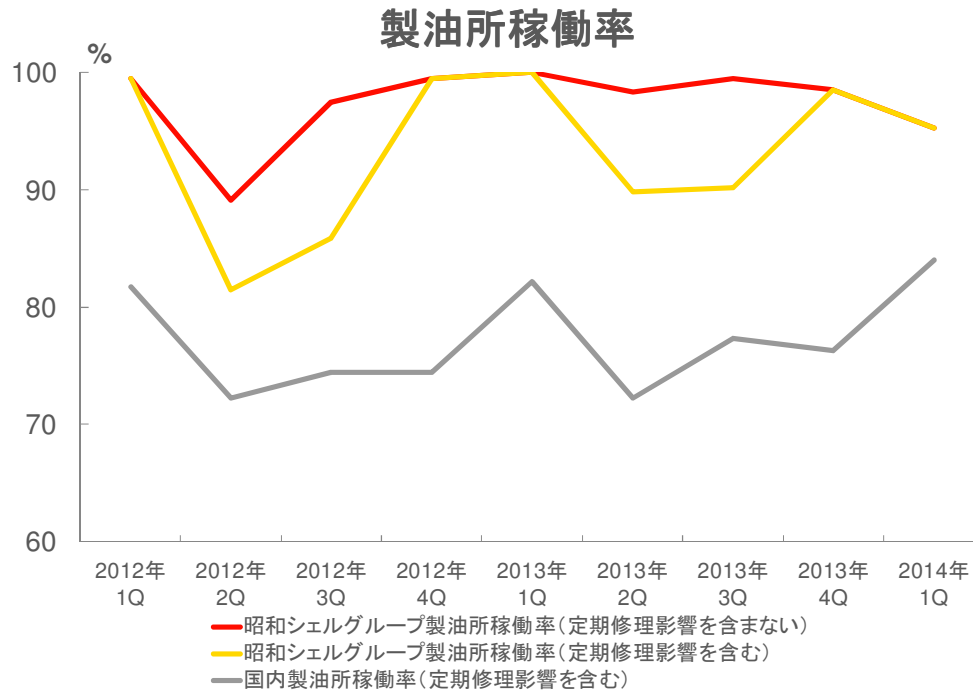
前年同期比 要因分析(経常利益)

単位： 億円

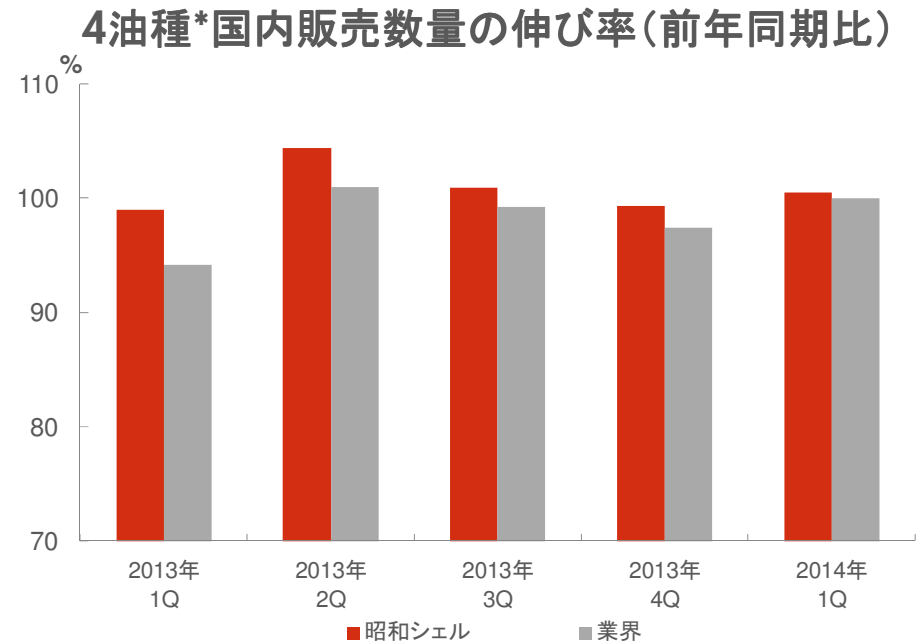


* CCS: Current Cost of Supply (在庫評価の影響を除いたもの)
 ** 「在庫影響等」 には、たな卸資産の簿価切下げによる影響を含む。

事業概況 2014年1-3月－石油事業



出典：石油連盟



*4油種：ガソリン、灯油、軽油、A重油

出典：経済産業省「資源・エネルギー統計」

※2014年1Qの業界は速報値

- 第1四半期のグループ製油所稼働率は、2月より海外輸出向け能力として四日市製油所の公称原油処理能力を日量45千バレル増強した影響で、前四半期比で低下するも依然高稼働を維持
- 厳しい需要環境下でも、比較的付加価値の高い燃料油であるガソリン、灯油、軽油などの4油種合計の国内販売数量伸び率は前年度に引き続き、第1四半期においても業界を上回った
- 国内への安定供給を確保したうえで、収益機会拡大のため、軽油を中心に当初計画を大幅に上回って積極的に製品輸出を実施

原油処理実績と販売数量実績 (1-3月)



■ 原油処理実績とグループ製油所稼働率

		2013年度 1-3月実績	2014年度 1-3月実績
原油処理実績	(千KL)	5,651	5,848
稼働率	(%)	100.0%	95.2%

(注記)

原油処理実績および稼働率は京浜・四日市・山口の3製油所合計

■ 製品別販売数量

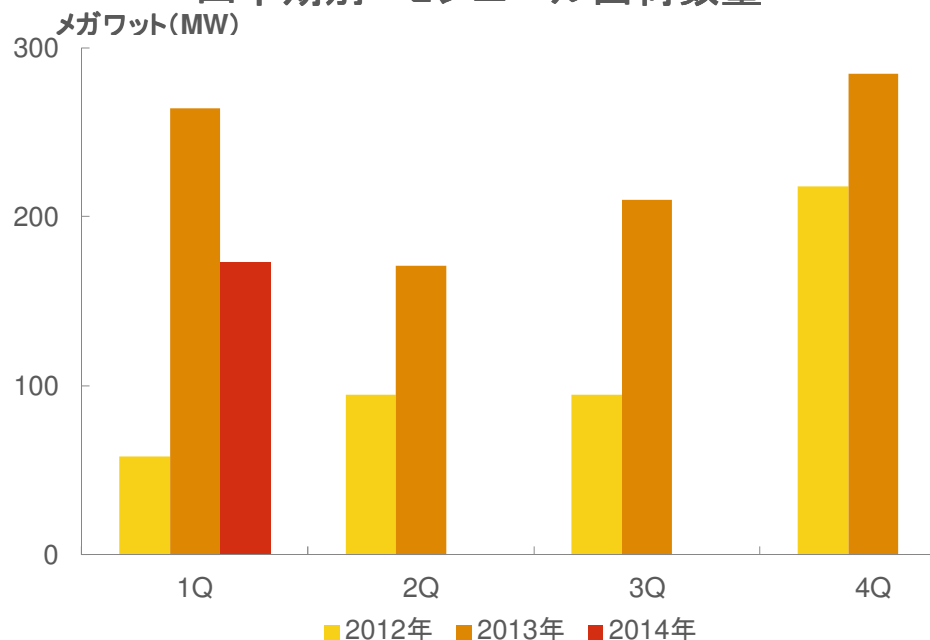
(千KL)	2013年度 1-3月実績	2014年度 1-3月実績	前年同期比
揮発油	2,139	2,135	- 0.2%
ジェット燃料	496	417	- 15.9%
灯油	1,180	1,151	- 2.5%
軽油	1,254	1,302	+ 3.9%
A重油	505	513	+ 1.6%
C重油	432	292	- 32.5%
化成品* (千MT)	246	257	+ 4.5%
その他	825	823	- 0.2%
国内販売合計	7,077	6,890	- 2.6%
輸出	301	550	+ 83.0%
総合計	7,377	7,440	+ 0.9%

*化成品: ミックスキシレン、ベンゼン、プロピレン

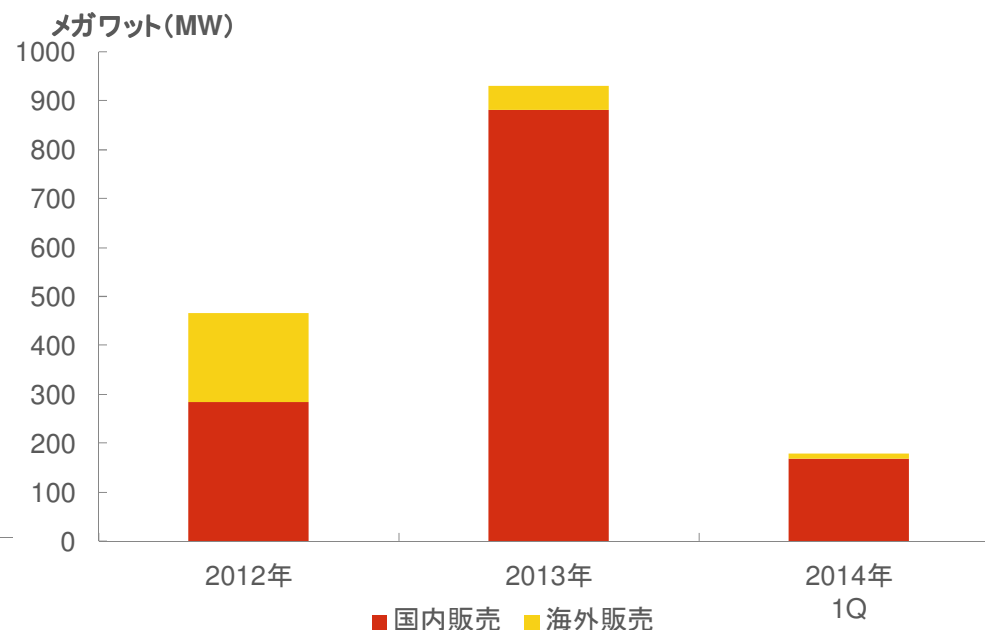
事業概況 2014年1-3月－太陽電池事業



四半期別 モジュール出荷数量



地域別モジュール出荷数量



- 収益は計画通りに推移する一方、第1四半期のモジュール(パネル)出荷は前年同期比で減少。天候不順などによりお客様の発電所建設工期に遅れが生じ、出荷タイミングの後ズレが発生したことも要因。第2四半期以降の出荷として持ち越されることとなった。年間のモジュール出荷計画数量は変更なし
- 引き続きより収益性の高い国内市場にフォーカスした販売、全体の90%以上を国内市場へ
- 海外市場向けは、中・長期的な販売戦略の視点から選択的な販売を継続
- 第1四半期も国富工場および宮崎第2工場はフル稼働を継続
- 旗艦工場である国富工場のワット当たり生産コストの低減は計画を上回るペースで推移

平成26年12月期連結業績予想

■ 原油価格および為替レート

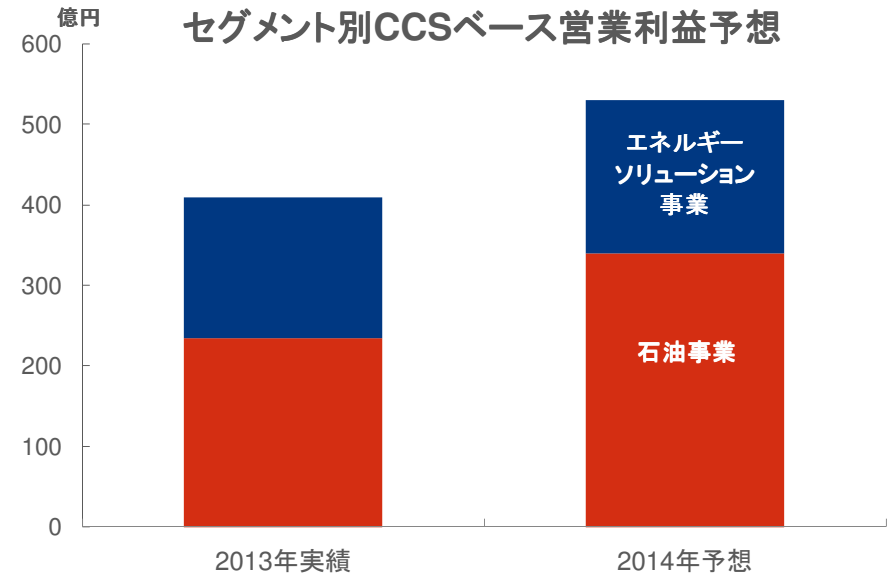
		2013年度 実績	2014年度 予想
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	105.5	103
為替レート	(円/USD)	97.7	105
	(円/EUR)	129.8	130

■ 連結業績予想

※2月14日に発表した業績予想は変更していません。

(百万円)	2013年度 実績	2014年度 予想
売上高	2,953,808	3,150,000
営業利益	75,430	53,000
※在庫影響	34,372	0
※CCSベース営業利益	41,058	53,000
石油事業	21,742	34,000
エネルギーソリューション事業	17,553	19,000
その他および調整額*	1,763	-
経常利益	76,204	53,000
※CCSベース経常利益	41,832	53,000
当期純利益	60,295	37,000

*「その他および調整額」の2014年度予想は、「石油事業」に含まれています。



<業績予想の前提>

- 石油事業:
 - ✓ 2月に発表した予想利益水準を維持
 - ✓ 4月以降の国内燃料油マージン回復を想定、化成品マージンは足元の水準を想定、構造的コスト削減を継続
- エネルギーソリューション事業:
 - ✓ 2月に発表した予想利益水準を維持
 - ✓ 計画に則り、太陽電池事業は生産コスト低減と付加価値販売を推進、電力事業は安定的な利益貢献を継続して想定

2014年第1四半期 主なトピックス



石油事業

四日市製油所における 不均化装置*の建設を決定

「中期経営アクションプラン」に掲げている石油化学事業拡大の一環として、四日市製油所に不均化装置を建設し、ミックスキシレンなどの化成品の増産を図ります。2016年中の稼働を予定しています。

ミックスキシレンはポリエステル繊維やペットボトルの原料として、アジアでの需要が堅調に伸びています。

同装置と既存設備の組み合わせによって、付加価値の高い製品をより効率的に生産することが可能になり、四日市製油所の収益力が強化されます。



*不均化装置：
トルエン等の芳香族を主原料とし、ミックスキシレンやベンゼンを生産する装置



エネルギーソリューション事業

薄膜系太陽電池として 世界最高の変換効率20.9%を達成

ソーラーフロンティアは、NEDO*との共同研究を通じ、CIS薄膜太陽電池のセル(約0.5cm²)において、エネルギー変換効率20.9%を達成しました。

この記録は、2013年に達成したカドミウムを含まないCIS系薄膜太陽電池の最高効率(19.7%)を上回り、全ての薄膜系太陽電池として世界最高となる記録です。

この成果は同社の技術開発ロードマップに沿った進捗であり、速やかに商業生産技術として確立すべく取り組みます。



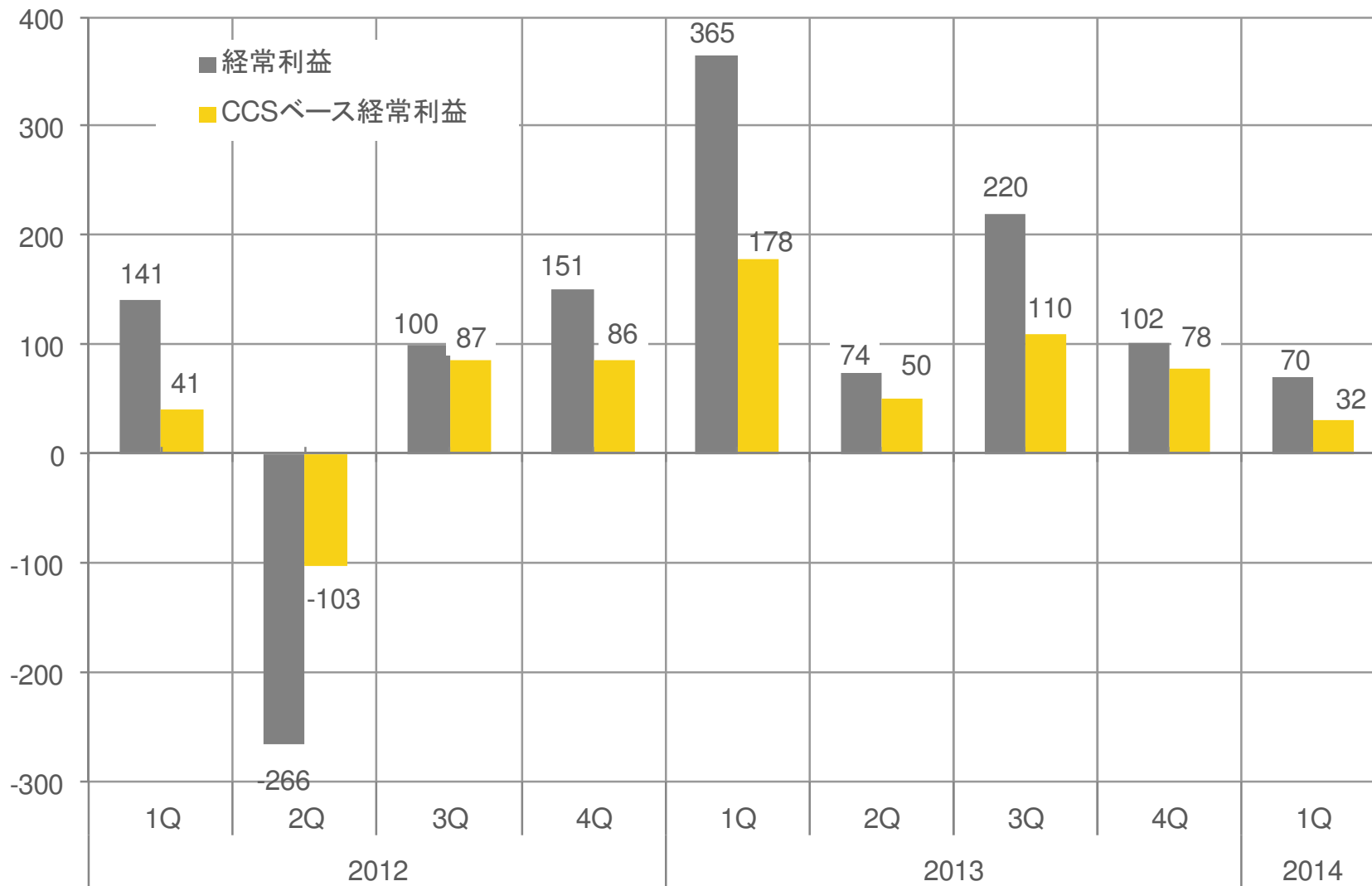
*NEDO：
独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

世界最高の変換効率を達成した厚木リサーチセンター

Data Book

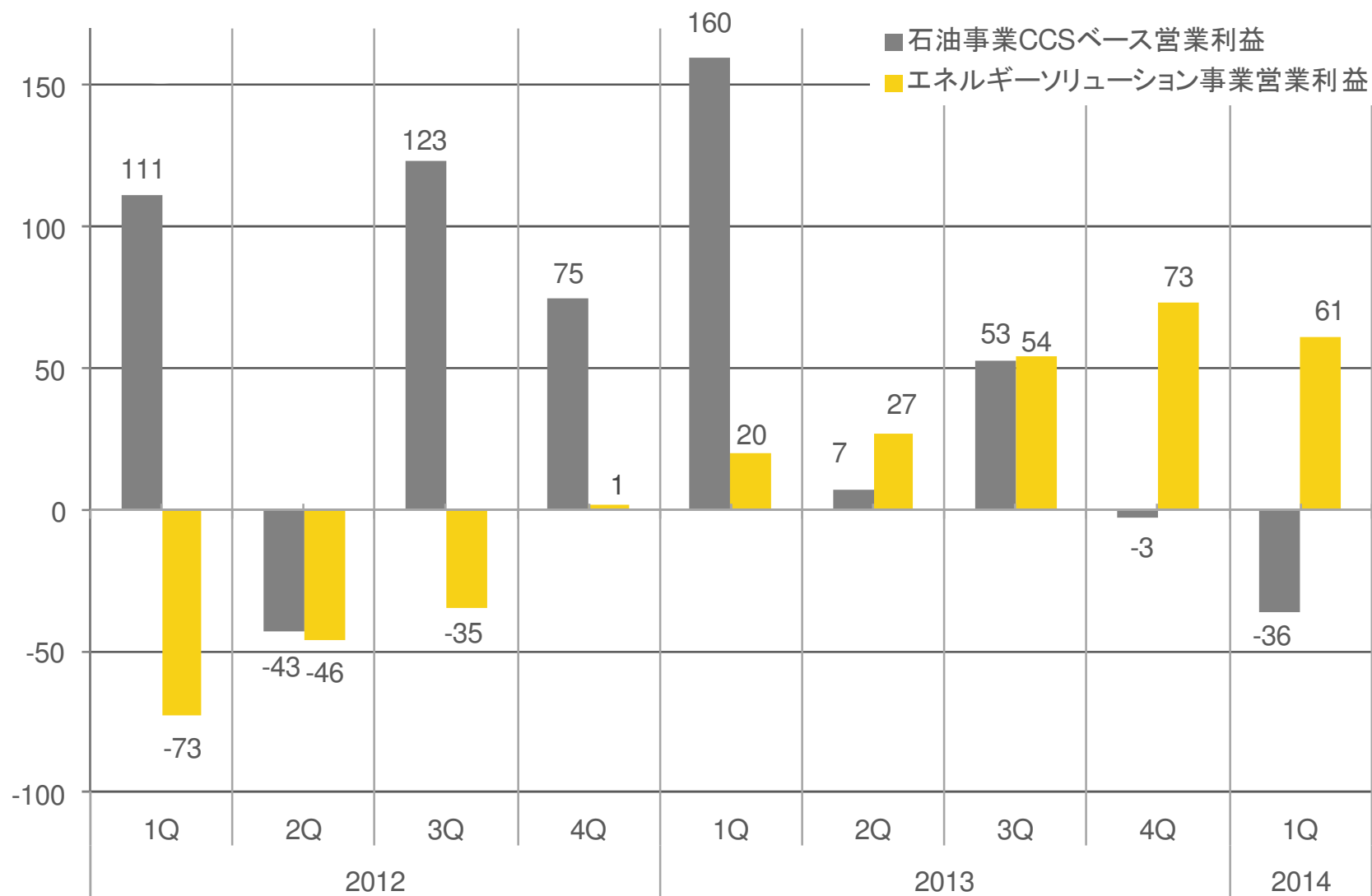
四半期別 経常利益の推移 (CCSベース)

億円



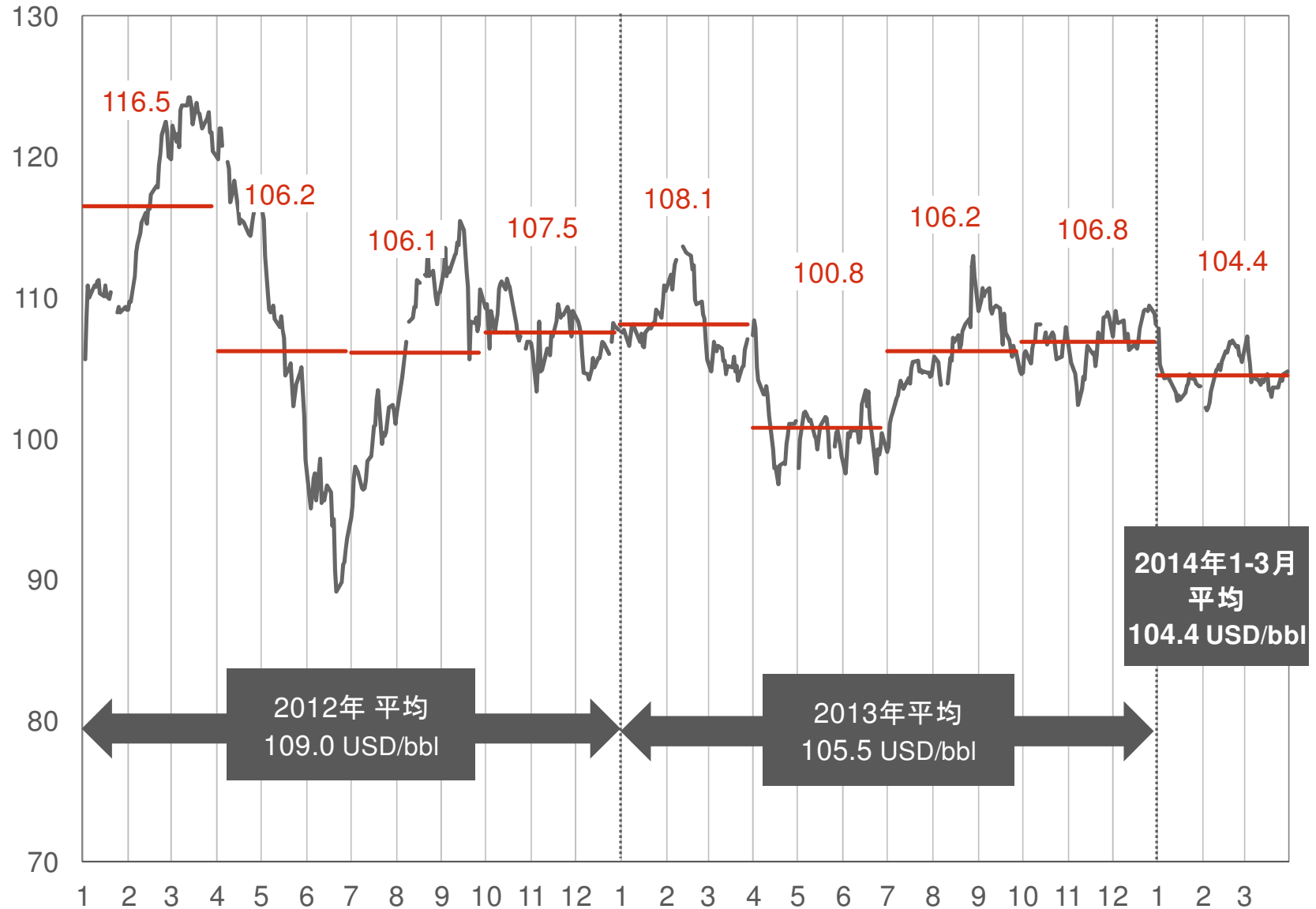
四半期別 セグメント別 営業利益の推移 (CCSベース)

億円



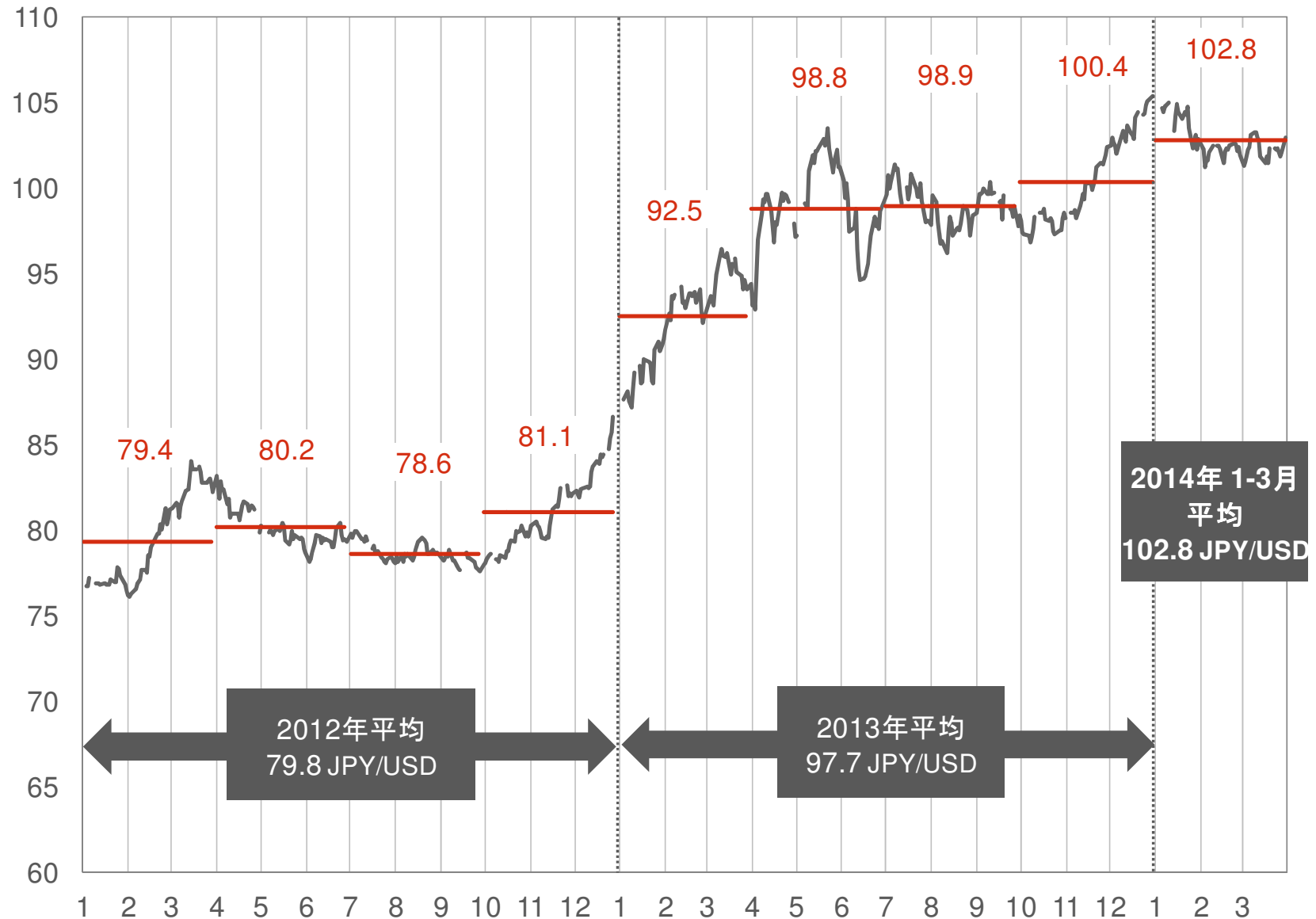
ドバイ原油価格の推移

(USD/bbl)



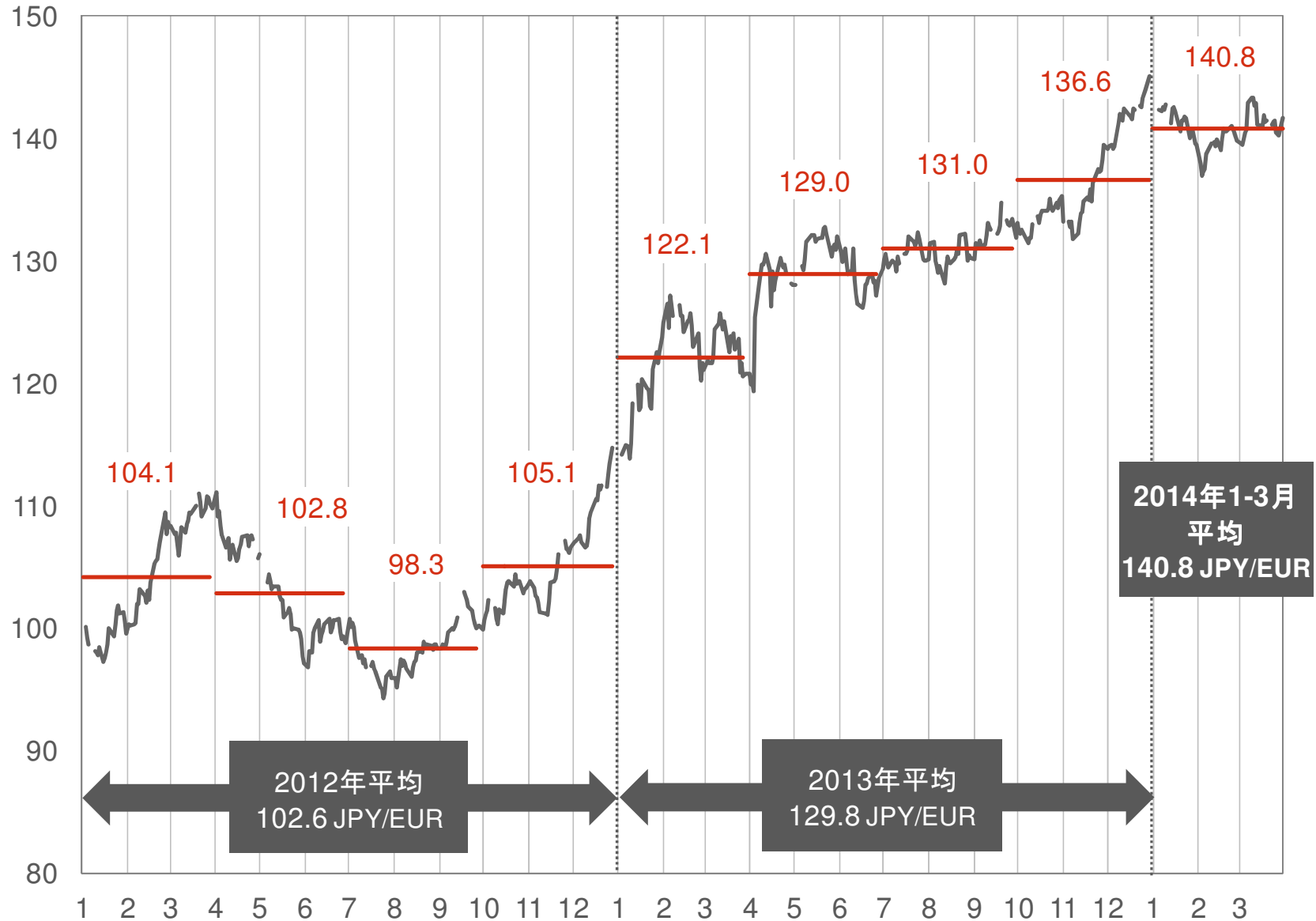
為替レートの推移 (円/アメリカドル 仲値)

(円/USD)



為替レートの推移 (円/ユーロ 仲値)

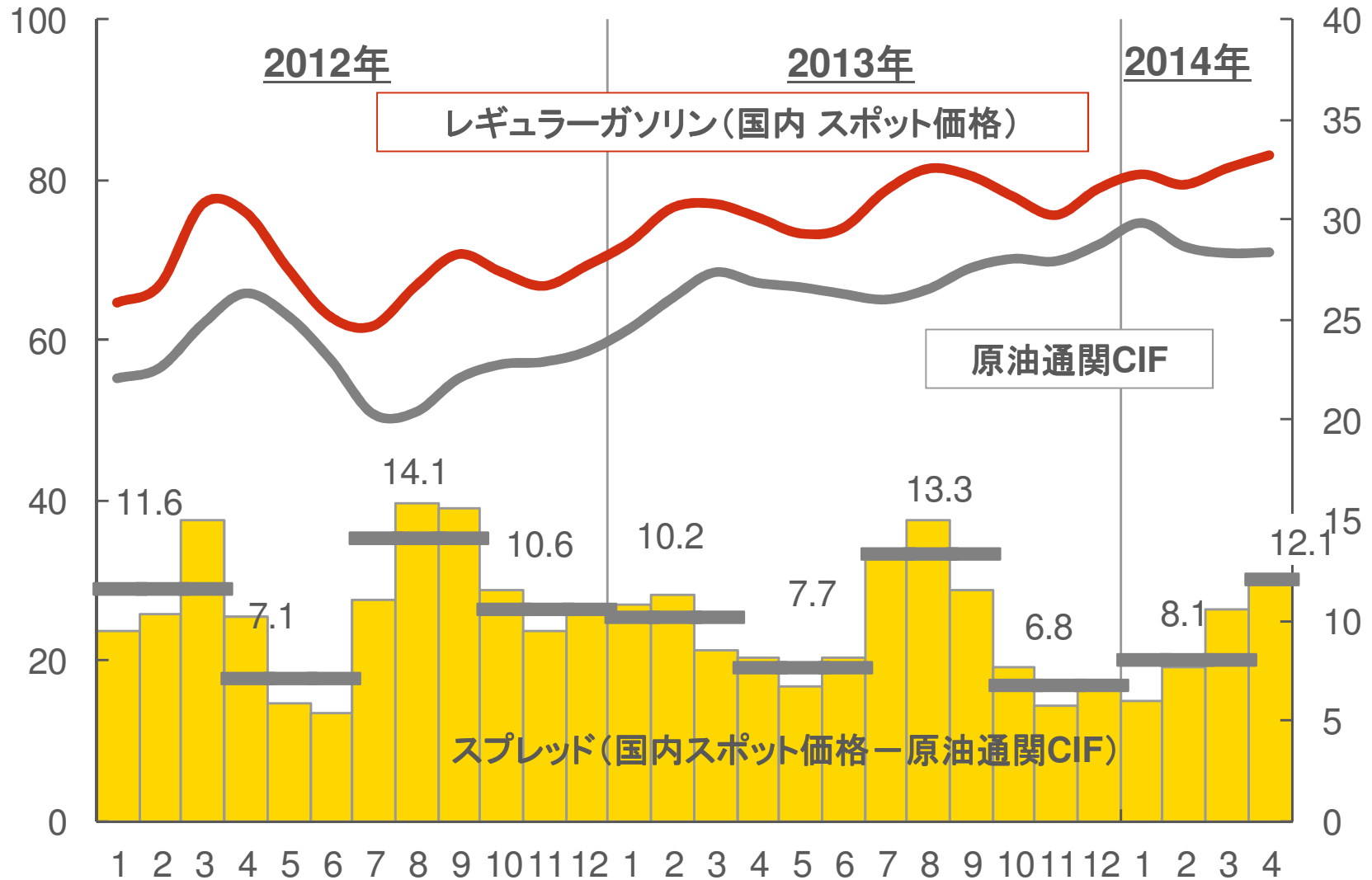
(円/ユーロ)



国内マーケットの状況① (ガソリン)

原油・製品価格 ¥/L

スプレッド¥/L



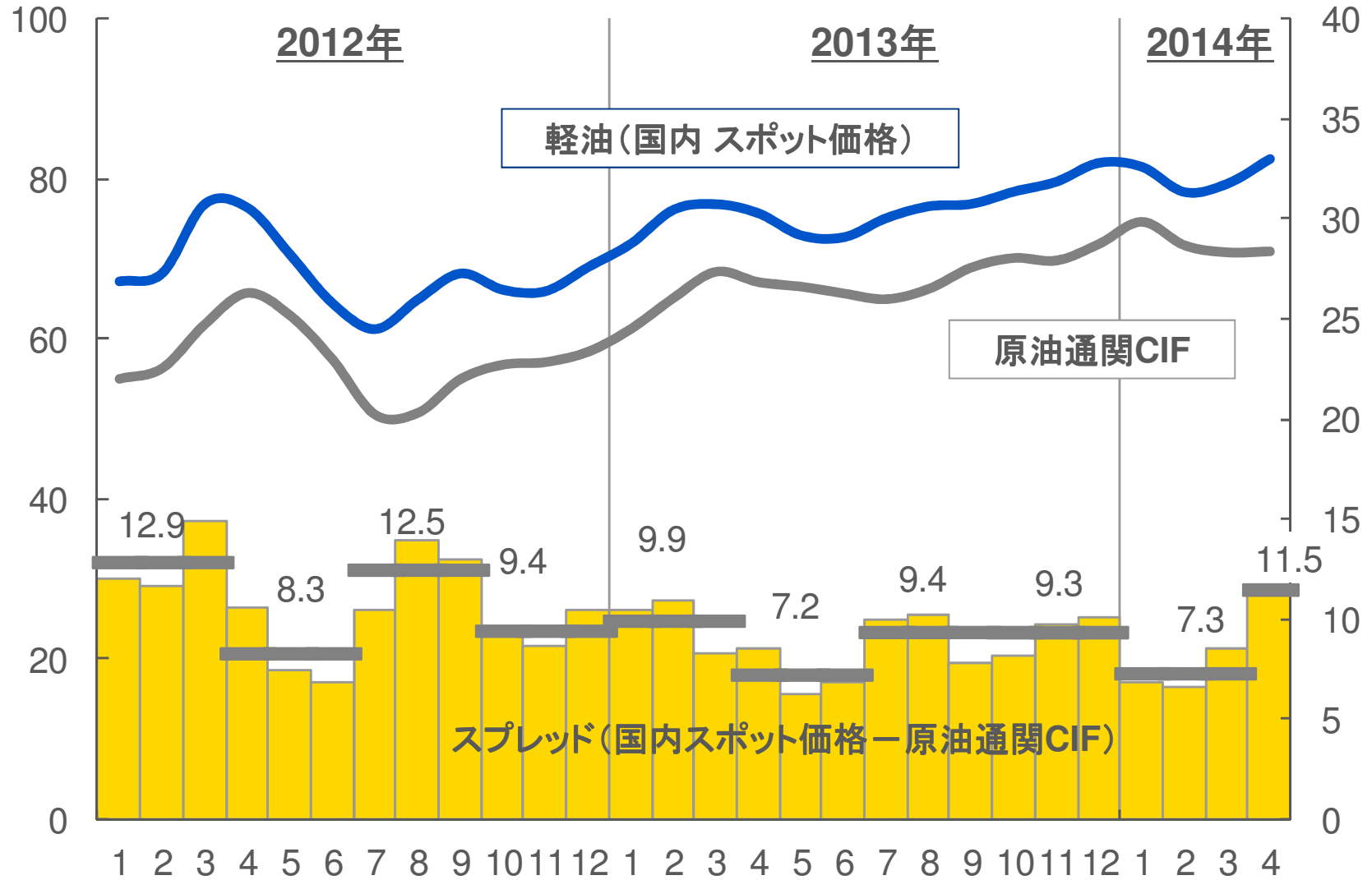
注記) 原油通関CIF: 財務省「貿易統計」より

※2014年4月の原油通関CIFは暫定値

国内マーケットの状況② (軽油)

原油・製品価格 ¥/L

スプレッド¥/L



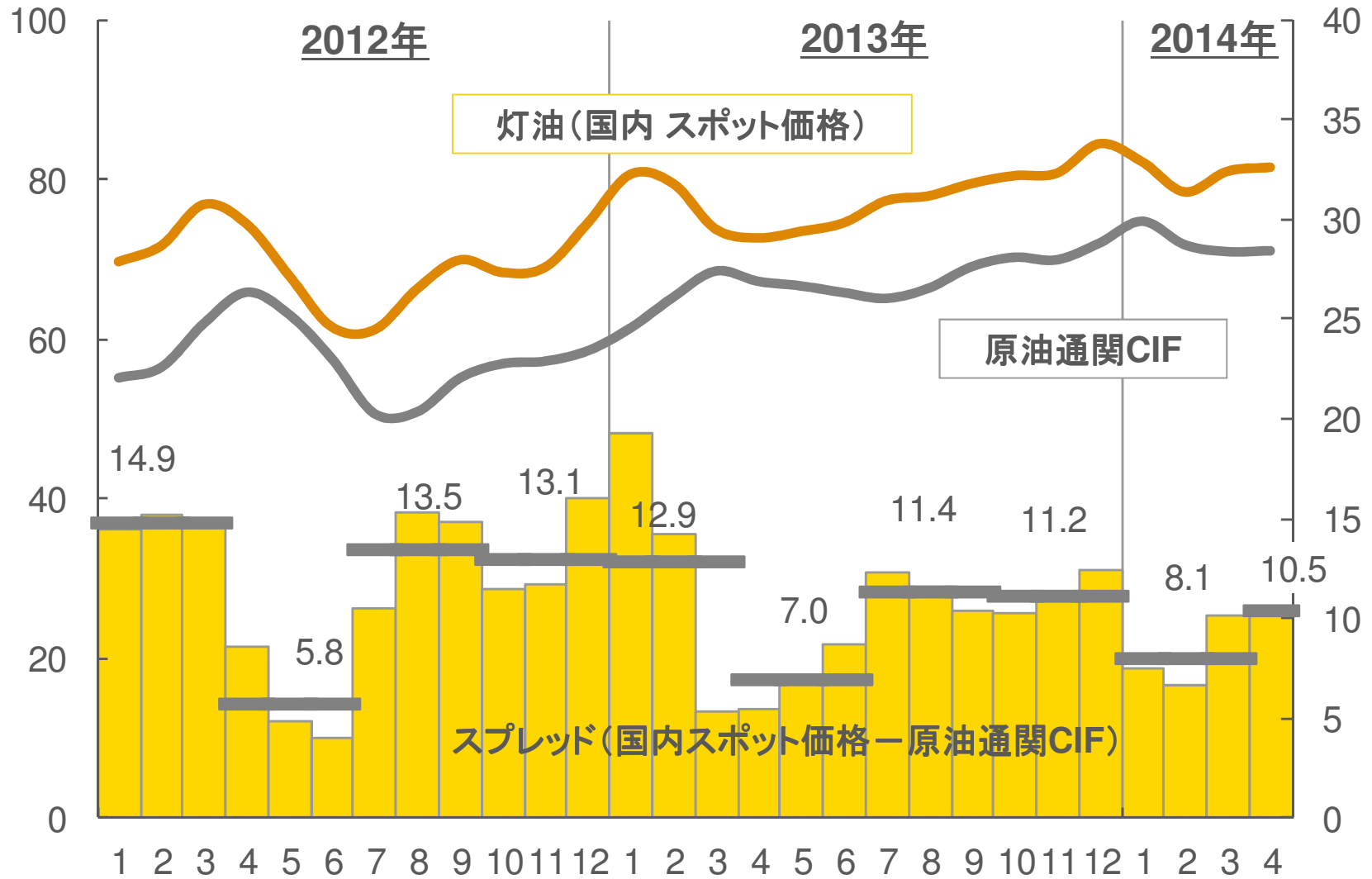
注記) 原油通関CIF: 財務省「貿易統計」より

※2014年4月の原油通関CIFは暫定値

国内マーケットの状況③ (灯油)

原油・製品価格 ¥/L

スプレッド¥/L



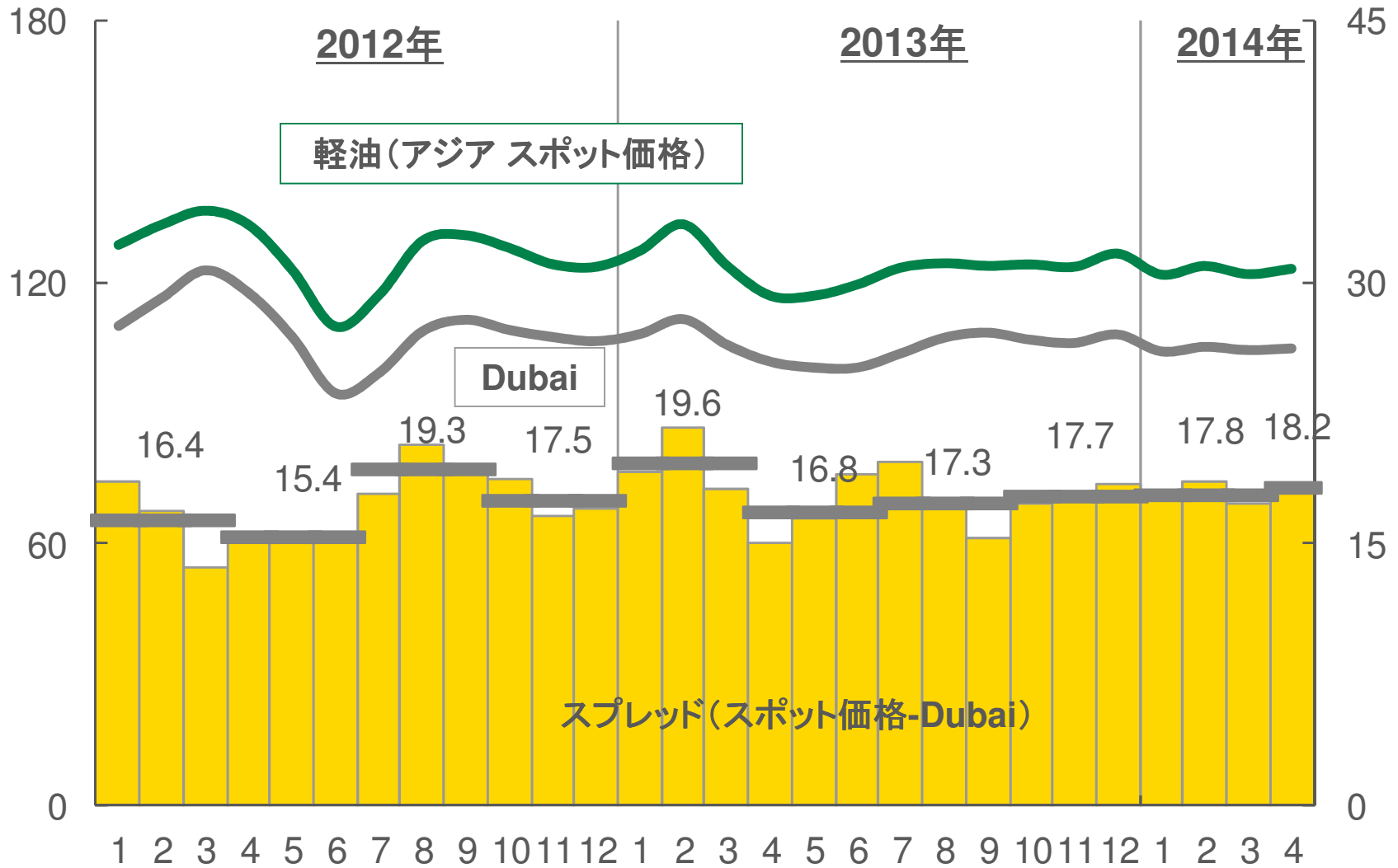
注記) 原油通関CIF: 財務省「貿易統計」より

※2014年4月の原油通関CIFは暫定値

海外マーケットの状況① (軽油)

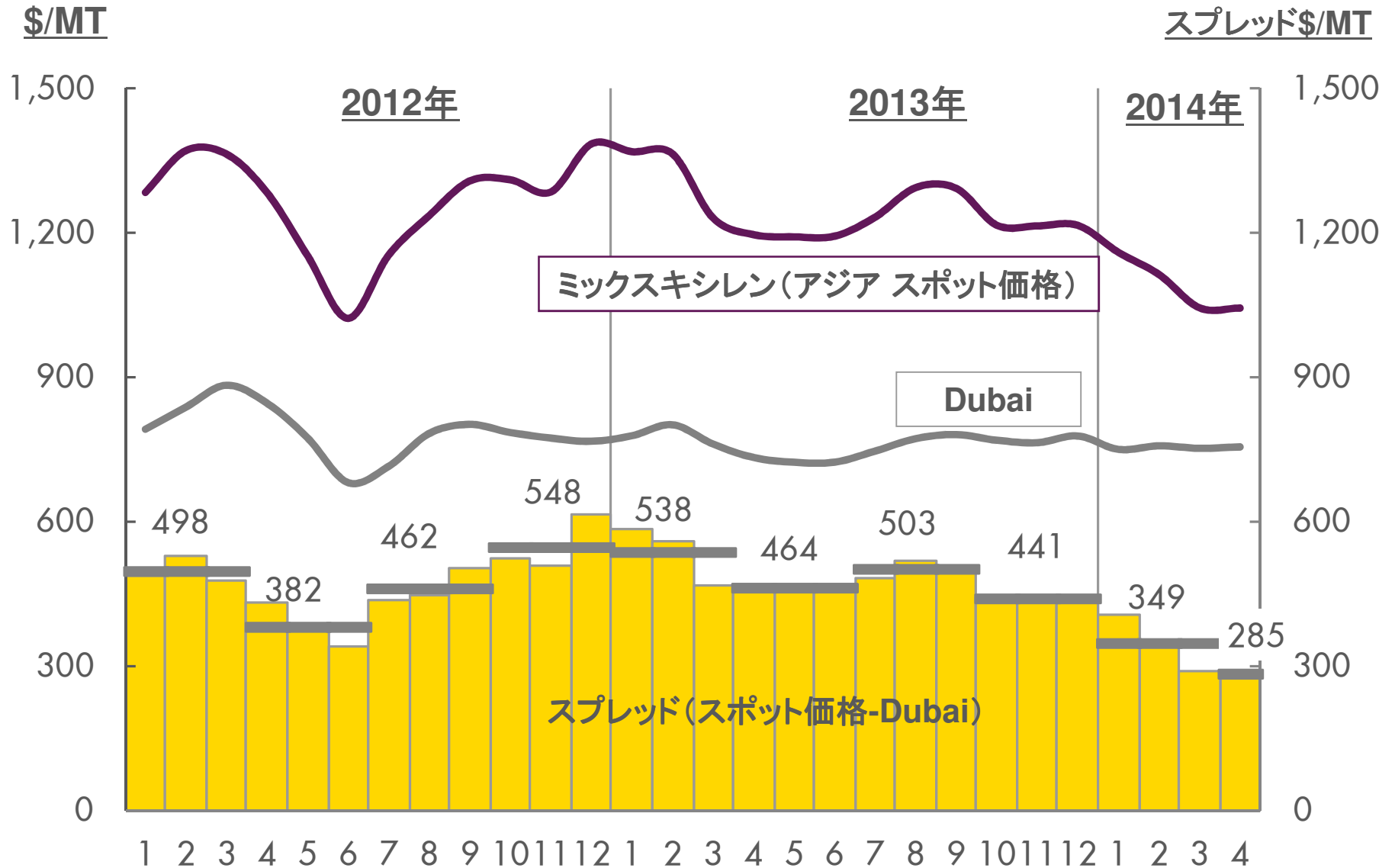
\$/bbl

スプレッド\$/ bbl



注記) Dubai: アジア向け中東産原油の基準となっているプラッツ社が発表するドバイ原油スポット価格

海外マーケットの状況②(ミックスキシレン)



注記) Dubai: アジア向け中東産原油の基準となっているプラッツ社が発表するドバイ原油スポット価格

